

DIGITAL コーラス愛知

2026/6/10
発行
第8号
愛知県合唱連盟

♪ 新理事長ご挨拶



2月22日に第65回愛知県合唱連盟総会が行われ、右のような新体制で運営していくことになりました。

顧問	河辺泰宏
理事長	村瀬輝恭
副理事長	長谷正子
	藤森 徹
	松本茂生
事務局長	市野恵子
事務局次長	藤田敏夫

この度、愛知県合唱連盟理事長を拝命いたしました村瀬です。

私は高校時代に合唱音楽に出会い、大学の合唱団では学生指揮者として活動しながら一般合唱団にも参加して活動を広げました。社会人となってからは男声合唱団に所属し、そこで高田三郎先生の音楽とレッスンに出会い、一生合唱を続けようと思いました。それから須賀敬一先生、松原千振先生にご指導いただき、指揮の世界に浸かりました。その後、様々な一般合唱団や大学合唱団からお声がけをいただき、今日の指揮者活動に至っています。

さて、新型コロナウイルスの流行も徐々に下火となり、合唱活動も段階的に以前の様相を取り戻してきました。しかし合唱活動を取り巻く環境は大きく変わりつつあります。

一つめは小学校や中学校のクラブ活動の在り方です。市区町村内で地域ごとにいくつかの活動の受け皿となる団体をつくり、そこへ各学校のクラブ活動団体を集約して活動を行うというものです。地域移行によって加盟団体数が減少する可能性もあり、若い時に合唱の魅力に出会う機会を失わないよう対策が望まれるところです。合唱を愛する仲間を増やしていくためにも、新たに加盟していただける団体への働きかけをどのように行うかが課題になってきます。

二つめは若手による新たな合唱団の活動が盛んになっている点です。最近では長く続く合唱団が増え、中には中堅合唱団として様々なコンサートを行う団体やコンクール県大会では上位に入る団体もあります。これらは若手指揮者が育ててきているということでもあります。連盟として彼らが活躍できる環境を整えていきたいと思えます。

三つめは新しく誕生する合唱曲の数が急速に増加したことです。1980年代までは今のように楽譜が出版されることはなく、歌う曲も限られ、老若男女を問わず同じ曲を歌うことにより、合唱の素晴らしさを共有していたと思えます。1990年代には海外の合唱作品が手軽に入手できるようになり、その後、楽譜出版技術の向上、楽譜入手方法の変化、身近に作曲家への委嘱依頼が可能となるなどの環境の変化が起きました。それぞれの時代には名曲があります。その名曲にふれる機会を増やし、合唱を通じた世代を超えた交流を実現させることで、ますます合唱が盛んになっていくことを願います。

理事長就任にあたり、微力ながら愛知県合唱連盟の将来に向けて尽くしていきたいと思えますので、どうぞよろしくお願いいたします。

♪ 2025年度合唱講習会 ～よこじゅんワールドに挑戦～

2026年3月29日(日) 名古屋文理大学文化フォーラム 中ホール



作曲家の横山潤子氏を講師にお招きし、女声合唱の部は「春風」「たましいのスケジュール」を、混声合唱の部は「心の瞳」「その木々は緑」を題材に、作曲の経緯や楽譜に記された記号の意味などの楽曲分析のお話を聞き、受講者（女声161人、混声185人）が合唱表現の追究を行いました。「野生より知性」「野生より理性」と技術と気持ちのバランスを保つことの大切さなど、合唱をする上で心がけたいポイントを押さえたお話に参加者は引き込まれました。

VOCI BRILLANTI 白鳥 清子

小柄で背筋がしゃんと伸びパワフルな横山先生の、音楽をするための大切なことが詰まった講習会でした。なるほど！と思ったお話は、「毛筆での筆の運びのように、ずっと流れるように演奏してほしい」「演奏が退屈にならないように、様々な記号を見たら工夫してほしい」「日本語のニュアンス、色彩感、季節感など、五感を総動員して演奏してほしい」でした。また、同じ歌詞を3回繰り返すときのお話は、そんなに変わるの！と感動しました。当然考えていましたが、作曲者は何百倍も考え深い思いを託されていて、楽譜は作曲者からのラブレターだと痛感しました。また、今回は愛知県で大活躍している若手の先生方の新鮮な練習、指揮に触れることもできました。そして、ワンポイントアドバイスを受講した、平均年齢70歳？のコール・フリユッセの演奏は人生経験がにじみ出ている、私たちが頑張っている歌っていきたくないと勇気をもらえるものでした。皆さんも、感動の学びと元気がもらえる講習会にぜひ足を運んでみませんか。



♪ 指揮をされた宮田郁也、浅田龍之介、山田歩美、山本高栄、美しいピアノを弾かれた渡邊俊太、天野雅子、野出明江の皆様ありがとうございました。

♪ ワンポイントアドバイスは、3団体が受講。各団の個性に応じた選曲や合唱表現に対して、先生の的確な指導や言葉がけに聴講者も楽しい時間を過ごすことができました。

受講された「コール・フリュッセ」「混声合唱団名古屋大学コール・グランツェ」さんから感想を頂戴しましたのでご紹介します。



コール・フリュッセ 安藤 敬子

「南方の暖かい海、深すぎない海…」これは、作曲者の横山潤子先生が『たましいのスケジュール』の曲を作られた時のイメージだそうです。「フレーズは、サザエさんの沢庵（切ったはずなのに全部つながっている）のように…」など、面白い表現でのご指導は、先生のお人柄までわかるような気がしました。

『レディンウールのおばあちゃん』のワンポイントレッスンでは、「よいしょ」と歌う部分で、我々平均年齢70歳の合唱団の人生経験値に見合う〈歌声〉ならぬ〈掛け声〉に大笑いをしてくださいました。反対に〈花の乙女…〉の部分では、若々しい声を出せる工夫を質問され、「昔を思い出して歌っている。マイナス70歳をイメージして」という返事にまたもや大笑い。曲のイメージに沿った歌い方を教えていただくうちに、あっという間にレッスン時間が終了しました。『横山先生推し』になれた幸せな時間でした。

混声合唱団名古屋大学コール・グランツェ 上田 励

3月29日に行われた合唱講習会のワンポイントアドバイスに参加させていただきました。

2月にグランツェが開催した定期演奏会では、横山潤子先生作曲の組曲「笑いのコーラス」を演奏したこともあり、作曲者ご本人から直接ご指導をいただける貴重な機会だと感じ、参加しました。

当日は、組曲の終曲「百八歳まで」を演奏しました。この曲は、組曲の中でも比較的早い段階から練習に取り組んできた楽曲であり、指揮者にとっても思い入れの深い一曲であったことから、今回の選曲に至りました。

講習会を通して、自分たちの演奏にはまだ基礎的な部分で見直すべき点が多くあることを実感しました。他団体の演奏と比較する中で、自分たちの課題をより明確に認識する機会となり、悔しさと同時に多くの学びを得ることができました。

横山先生からは、音楽づくりの土台となる部分について丁寧にご指導をいただき、改めて基礎の重要性を感じました。今回の経験を今後の練習に活かし、より良い演奏を目指していきたいと思えます。



♪ 2026年度合唱講習会 講師 福永一博氏 ♡ ご予定ください♡

2027年1月24日(日) 尾張旭市文化会館ホール

♪ 第33回 愛知県ヴォーカル・アンサンブルコンテスト

2026年4月18日(土)

4月19日(日)

青少年文化センター（アートピア） 名古屋文理大学文化フォーラム



新しい年度になって最初の行事のアンサンブルコンテスト。中学生部門46グループ430人、大学職場一般部門27グループ260人が参加。会場にお越しくくださったお客様は中学生728人、大学職場一般225人、計953人と昨年を200人ほど上回る状況に、一時プログラムが足りないかも…とドキドキする場面もありましたが、新旧理事の協力で楽しい催しものになりました。

「大人の本気の遊び」を応援するために、今年も大学職場一般部門に新しい企画が……。従来のPRタイム、審査員賞に加え、講師によるオープンシンギングが登場。日曜朝一に会場に集まった出演者は、梶田慶太先生のリードで、①ゆっくり首を回す体操や骨盤の返し方、②両手の指を1拍ずらして折る頭の体操、③「ゆうやけこやけ」の旋律に「どんぐりころころ」の歌詞をつけて歌うパートナーソングのメニューに挑戦。次第に会場の空気がなごみ、笑顔や笑い声にあふれました。また、お客様の選ぶ「聴衆賞」の投票用紙に、感想や投票した理由を書いていただくようバージョンアップしました。表彰式後、出演者のみなさんにお渡ししました。

♪ 聴衆賞

1位 半田少年少女Alma 31票



息がぴったりで賞 ほたるが本当にとんできたで賞 ほたるの道が見えたで賞 Almaゴールド賞
心のこもった歌だったで賞 見て見て見てトリハダーとなったで賞 きらめき賞 今後も楽しみで賞
心に残る歌声だったで賞 あらまあ素晴らしいで賞 ひびくうた声だったで賞 純真無垢な歌声で賞
心が震えたで賞 よく頑張ったで賞 ステキだったで賞 輝いたで賞 いっぱいがんばった賞

コメント: ・烏かねもん勘三郎、ほたるこいはともにかいあいのところがとてもきれいでした。

- ・たくさん練習してきたことがよくわかる息の合った演奏でした!!とってもすてきでした!!
- ・すごく良かったです!感動しました。皆でたくさん練習したのだろうと心をうたれました。
- ・夜間も練習よくがんばったなあと思いました。たいへんだなあと思うこともあったかもしれませんがこのメンバーは今後の希望の光だと思いました。この経験を糧にこれからも半田少年少女を引っ張って行って欲しいです。
- ・少年少女合唱団らしくお姉さんから小さい子でのチームでの参加はステキです。

2位 豊田市少年少女グレイス 20票



Nice Harmony賞 異次元の世界にいざなってくださった賞 夢ごこちで賞 すてきな歌声賞
ひきこまれるで賞 えがお賞 見た目は子ども歌声は大人で賞 グレイスフル・ハーモニーで賞

コメント: ・19団体中一番歌声がホールに響いていました。

- ・重厚でなまめいた涙の世界へひきつれて行ってくれた感覚になりはっとしました。ハーモニーがきれいをこえ異次元の世界にひきこまれるあたたかい力強さがありました。
- ・涙が出そうになりました。
- ・基礎がしっかりした総輪が人の心をつき動かすようで感極まりました。

3位 豊田市少年少女エンジェル 19票



フレッシュで賞 正にエンジェルで賞 ずっと合唱つづけてね!賞 しんけん賞 ボイスサラウンド賞

コメント:・とてもフレッシュな歌声で美しかったです。小さい子もメンバーにいるのにしっかりした声ですばらしかったです。

- ・ハモリがとてもきれいで、テンポがコロコロ変わっていてよかったです。good!
- ・コロコロとテンポが変わっていくパン焼き。みんなの息がピッタリで楽しく聴けました。
- ・からすかねもんは声ものびていて素直でまっすぐな歌声がステキでした。

4位 みよしカンタービレ 18票

5位 豊田市少年少女Oceans 16票

♪ 審査結果

♪中学生の部

- 最優秀賞 滝&翼 (滝ノ水中学校)
 金賞 虹神 (神沢中学校)
 Kai (岡崎イーストRyukai JH)
 Stella Maris (高針台中学校)
 はぎのだいさく (萩山中学校)
 Holy Spirit (聖霊中学校)
 Ryu (岡崎イーストRyukai JH)
 桜山中コーラス部Blossom
 ナイアガラの滝 (滝ノ水中学校)
 花鳥 (御田中学校)
 桜山中コーラス部Cherry



♪大学職場一般の部

- 最優秀賞 豊田市少年少女Oceans
 金賞 結音~むすびね~
 ナゴヤパープル
 リボンとパンとBRIと (VOCI BRILLANTI)
 Chor Glanze-瑠璃- (混声合唱団名古屋大学コール・グランツェ)
 Primavera Brillante (VOCI BRILLANTI)
 豊田市少年少女グレイス
 Chor Glanze-萌黄- (混声合唱団名古屋大学コール・グランツェ)



♪審査員賞

- 梶田賞.....アンサンブル スパゲッティ (Ensemble Spicy)
 小林賞.....プリエ・メメ (コール・フリユッセ)
 森 賞.....リボンとパンとBRIと (VOCI BRILLANTI)

♪コンテスト結果はこちら↓
[愛知県合唱連盟 アンコン中学・一般](#)

♪ 出演グループの声 ～中学生部門 インタビュー～

最優秀団体として選ばれた名古屋市立滝ノ水中学校「滝&翼」と、金賞受賞した同校の「ナイアガラの滝」の代表生徒2人にインタビューしました。

—まずは、最優秀賞の受賞おめでとうございます。本番前は緊張されていたかと思いますが、今の率直な気持ちを聞かせてください。

滝&翼：本番前はまだ不安な部分もあり、「このままで大丈夫だろうか」という思いもありました。しかし、最後の最後まで仲間たちが「大丈夫」と言い続けて励ましてくれたおかげで、「自分たちはまだ行けるんだ」と感じることができました。本番でも、最初の入りから「これなら大丈夫だ」という安心感を持って歌うことができ、それがとても良い結果につながったと思っています。



—練習はかなり厳しかったのではないかと思います。特に難しい曲に挑戦されていた印象ですが、練習中のエピソードや、苦労をどう乗り越えたかを教えてください。

ナイアガラの滝：アルトとソプラノで声がなかなか合わないことがよくありました。そんな時、山本先生が励ましながらかり強く教えてくださり、なんとか乗り越えることができました。

滝&翼：中学生が男声合唱に取り組むのは難しく、発声の面でも男子同士で声が合いにくいことがありました。それを一つのアンサンブルとしてまとめ上げるのは大変でしたが、山本先生が男性としての視点から「こっちだよ」と進むべき方向を指し示し、引っ張ってくださいました。先生が、僕たちが間違った方向へ行きそうになった時に軌道修正してくださることで、「この道なら大丈夫だ」という信頼関係が築かれ、それが合唱にも定着していったのだと思います。

—曲選びはどのように？ 先生が決めたのでしょうか、それとも皆さんの意見ですか？

滝&翼：一度ミーティングのような場があり、プロジェクターでいくつかの曲の動画や音声を確認しました。男子は日本語の曲をやることに決めました。

ナイアガラの滝：女子は日本語の曲か外国語の曲かで検討し、最終的に女子の中での話し合いでコダイの曲に決めました。

—来年3月には福島での全国大会。これから6月の合唱祭、コンクールと歌う機会が続きます。改めて、今後の目標や意気込みを聞かせてください。

滝&翼：実は前回の全国アンサンブルコンテストでは、予選で銀賞に終わり、本選に進むことができず、非常に悔しい思いをしました。その時、メンバーだった当時の3年生たちが泣いている姿を見て、自分も本当に悔しくて、「もう二度とあんな思いはしたくない、絶対にあの舞台に戻ってやる」という強い気持ちで、今日まで必死に頑張ってきました。その努力が今日の結果に結びついたことが、本当に嬉しいです。

—今は、多くの先生方に支えられているそうですが、指導体制について教えていただけますか？

滝&翼：山本先生が外部顧問としてメインで指導してくださっています。また、伴奏の野出明江先生、岩本拓郎先生にも支えていただいています。学校内では、事務的な面を含めて顧問の平林先生、中西先生がサポートしてくださっています。山本先生お一人では大変なところを、多くの先生方が支えてくださっているおかげで、僕たちは活動できています。

—最後に、これまで支えてくださった先生方、特に山本先生へメッセージをお願いします。

ナイアガラの滝：辛いこともたくさんありましたが、最後まで私たちを信じて支えてくださり、本当にありがとうございました。これからもよろしくをお願いします。

滝&翼：山本先生がいなければ、ここまで来ることは絶対にできませんでした。これからも色々なことがあると思いますが、どうか僕たちのことを見捨てずに（笑）、ご指導よろしくをお願いします。

♪ 出演グループの声 ～大学職場一般部門 寄稿～

アンコンに初出場、久しぶりに出場されたグループの方に練習の様子や本番の日の気持ちなどを、寄稿していただきました。

コール アチエル 曾我 ひより



学生時代の合唱仲間が集まって女声合唱団を結成し細々と活動していました。人の縁を頼りに愛知県全域から集まるので、練習はせいぜい月に一度がやっと。その中でも新たなメンバーが増える喜び。そして去年より指揮者の村瀬輝恭氏の指導のおかげで仕事や家庭の多忙な日々とは違った歌う歓喜を味わい、その勢いだけでアンサンプル・コンテストに出場しよう！と。反面「あれ？アンコンに出ちゃって大丈夫？」という不安に苛まれながらも練習を続け、「このみち」を選曲。この曲について毎回全員でワイワイと意見を出し合い、直前になって

やっと形になりました。いよいよ迎えた緊張の当日。笑いの絶えないオープン・シンギングやスタッフの皆さんに和ませていただき、笑顔でのびのびと歌うことができ、初出場で銀賞をいただきました。「オトナの本気の遊び」の体験でした。

これからもずっと「みんなでこの道を行こうよ♪」

ミセスホワイトリライ (コール リリアス) 西脇 佳子



ほとんどのメンバーがアンコン参加が初めてで、仲間と楽譜を読み込んだり、仲間の声をよく聴いたりしながら、曲を創り上げていく過程は充実していて、まさに真剣な大人の遊びでした。

最初の4団体だけが先にリハーサルがあり、オープンシンギング後すぐに本番というのは、コンテストである以上、不公平ではないかなと感じ、リハーサルも靴を脱いで出入り込み7分間というのも慌ただしかったです。

一般とユースの審査基準は同じなのか？ 違うのか？表彰は同じ括りだからどうなのかな？

一般部門も、例えば平均年齢40歳未満とそれ以上と

か、三重県のようにおかあさん部門をつくるとかすると、大人の真剣な遊びにも参加しやすいのかなあと思いました。

いずれにしても、新たな気付き、刺激のあるアンコン参加となり、今後の活動に活かしていきたいと思います。

♪ 審査員の先生方のご感想

梶田 慶太 先生

♪中学生の部

以前コンクールの審査をさせていただいた際、先生方が講習会などを通じて積極的に指導レベルの向上を図り、連盟がそれを強力にバックアップされている姿に感銘を受けました。今回のコンテストではその努力が実を結び、演奏レベルの高さはもちろん、参加団体数の多さにも表れていると感じ、深く敬意を表します。今後さらに上を目指すにあたっては、ブレスの質、母音の響きに連動した表情の作り方、そして大きな詩の流れの中での発音のあり方を研究されると、より表現が深まると思います。地域移行という時代の大きな変化の中で、活動の制限など「部活動」と「地域活動」の間で揺れ動く場面もあるかと思えます。しかし、音楽や合唱の素晴らしさは不変です。最終的な目標を見失うことなく、これからも日々の活動に邁進されることを願っています。



森 寿美

小林史子

梶田慶太

♪一般の部

前日の中学生部門と比較すると、やはり大人ならではの声の深みや説得力に納得させられました。一方で、選曲意図に疑問が残る団体もいくつか見受けられました。「歌いたい曲を歌う」ことは究極の理想ですが、その楽曲で何を指し、どう音楽を構築するのかという目的が漠然としてしまうのは非常にもったいないと感じます。それがあつた上で、楽曲分析を通じて「この曲で何を表現したいのか」という大前提を、指導者やメンバー間で共有することが重要です。また、アンサンブルの喜びをもっと客席に届けてほしいと思います。「このこのハーモニーを聴いてほしい」「このユニゾンにこだわっている」といった自慢やアピールが演奏から見えてくるのが僕は好きです。やりすぎは逆に引いてしまいますが、やっぱりワクワクしますから。

♪ユースの部

大学職場一般部門との区分けに難しさを感じつつも、多種多様な個性が集まる、いわば「無差別級」のような活気を感じました。これからの合唱界を担う若い世代が、今後も歌い続けていくために我々大人が何をすべきかを、私自身も問い直す貴重な時間となりました。

「アカペラには純正律」や「移動ド唱法」といった技法も大切ですが、最も重要なのは「心地よい響き」を客観的に判断できる耳を持つことです。その点、音程の精度には団体間で差が見られました。「良い発声」と「良い音程」は不可分なものです。アンサンブルとは、単に聴き合うだけでなく、聴き合いながら新しい響きを創造し続ける作業です。音は常に変化しています。身体の支え、息の流れ、そして頭の中のイメージ。持てるもの全てを駆使して、神様がくれた「知的な遊び」を存分に楽しんでいってください。

小林 史子 先生

♪中学生の部

フレッシュで心のこもったアンサンブルをありがとうございました。皆さんの演奏を聴いて、とてもワクワクした気持ちになりました。

今回の皆さんの演奏を聴いて感じたことがあります。それは、声を磨くことは、単に自分の声を活かして歌うだけでなく、将来の方向性を明確にするためにも重要だということです。皆さんの声は、一生に一つだけの特別な楽器です。そして、年齢とともに必ず変化していきます。この変化を受け入れながら、楽しく歌う時期や、悩む時期、感動的な作品に出会う時期など、さまざまな感情が伴います。失敗してしまうことがあっても、それは決して悪いことではありません。そこから学

び、時には予想外のインスピレーションを得ることもあるのです。大切なのは、指導をしてくださる先生のアドバイスをしっかりと聞き、自分の声を成長させることです。

皆さんのこれからの成長を心から楽しみにしています。

♪一般の部

副理事長の「大人が本気で遊ぶ」という言葉に基づいて、素晴らしいパフォーマンスが繰り広げられましたね！各グループの成果や思い通りにいかなかった部分も含めて、すべてが価値ある体験だったのではないのでしょうか。皆さんの真剣な歌唱には、心から感動しました。

ここで強調したいのは、声の変化が必ずしも老化を意味するわけではないということです。年齢と共に声は変わりますが、それは成長や進化とも捉えられます。この変化を前向きに受け入れ、どんな時でも声を育て続けることがとても大切です。継続することで、声の可能性を引き出し、より豊かな表現を生む力になります。

さらに細かなことですが、言葉のテクニックも大切です。テキストの意味をしっかりと表現するために、子音と母音の発音、アクセント、レガートなどが重要です。また、曲の調性感や拍子感にも注意を払いながら、やることはたくさんあります。一つひとつを身につけるプロセスを楽しみながら、アンサンブルを作り上げて行って欲しいとおもいます。

これからも本気で楽しみにしています。

♪ユースの部

ユースの部では、参加者の皆さんのアンサンブルに対する取り組みや選曲から、非常に大きな伸び代を感じることができました。それぞれのグループが選んだ曲には独自の世界観やハーモニーの創造力が見られ、将来的な可能性が大いに秘められていると強く感じました。

ただ、素晴らしい演奏があっただけに、言葉の表現やハーモニーの奥行きにはさらなる工夫が必要だとも思います。特に日本語やラテン語の持つ細かなニュアンスや明瞭さを意識することに加え、全体的な表現力やフレーズにも、しっかりと注意を払うことが大切です。技術的な部分にとらわれすぎると、演奏のスケールが小さくなりがちで、本来のメッセージや音楽が伝わりにくくなるため、曲の構成時にはバランスにも気をつける必要があります。

それでも、各グループの演奏はとても楽しそうで、私も嬉しくなりました。細かい部分に気を配りながらも、音楽を楽しむ姿勢や自らの表現を磨いていく努力は、今後の成長へとつながることでしょう。

これからも、身体を楽器として育てながら、多くの曲に出会い、さらなる素晴らしいハーモニーを聴かせていただきたいと思います。

森 寿美 先生

♪中学生の部

爽やかな歌声と、仲間と音を紡ぎ出すアンサンブル力の高さに深い感銘を受けました。一人ひとりの個性が光り、互いを尊重し合う姿勢が感じられる素晴らしいステージでした。

さらなる飛躍のために二点アドバイスを送ります。

一点目は発声の深化です。全体に声が「浅く」まとまる傾向があったため、ホール全体を響きで満たす意識をより強く持ってください。喉の力みを取り、身体全体を楽器として鳴らすことで、より深く豊かな響きを探求しましょう。

二点目は楽曲研究です。楽譜の音符や言葉をなぞるだけでなく、合唱の命である「言葉」を深く読み解いてください。詩の内容を理解し、「なぜ作曲家はこの音を付けたのか」という意図を研究することで、演奏に説得力と奥行きが生まれます。

皆さんの瑞々しい感性に、テクニカルな深みと知的なアプローチが加われば、演奏はさらに魅力的になります。今後の成長を心より期待しております。

♪一般の部

「歌が好きだ」という純粋な想いと、アンサンブルに対する深い愛を強く感じました。「こう歌いたい、こう表現したい」という明確な意志が、明瞭な言葉と共に真っ直ぐ伝わってくる演奏の数々に胸が熱くなりました。

さらなる高みを目指す上で、今後の課題として感じたことをお伝えさせていただきます。

一点目はアンサンブルの精度です。細かな動きにおける正確性やパート間の声のバランスを今一度見つめ直してみてください。個々の表現意欲が高いからこそ、縦の線を緻密に揃え、響きの均衡を整えることで音楽の骨格はより強固なものとなります。

二点目は、表現の幅と変化の追求です。言葉の伝達力は素晴らしいものをお持ちですので、和声の変化に応じた音色の対比や、フレーズごとのダイナミズムをより大胆に盛り込んでみてください。皆様の持つ情熱に、緻密な技術と彩り豊かな表現が加われば、音楽の世界はさらに深く広がります。これからも仲間と共に、唯一無二の響きを追求し続けてください。

♪ユースの部

完成度の高さに驚かされました。いずれも甲乙つけ難いハイレベルな演奏ばかりで、審査員としての好みをも問われるような、非常に難しい選考となるほど充実したステージでした。

さらなる飛躍のために、あえて高い要求をお伝えさせていただきます。

一点目は言葉の扱いについてです。クオリティーの高い演奏だからこそ、詩の解釈や言葉の響かせ方に、もう一工夫ほしいと感じるグループがありました。正確に歌うことの先にある、言葉が持つ本来の体温や質感を、アンサンブルの中でどう生かすかを探究してみてください。

二点目は表現の大胆さです。綺麗にまとまった「正解」の演奏に留まらず、そこから一步踏み出し、聴き手の心を揺さぶるような意志の強さや大胆さがあっても良いのではないのでしょうか。型を破る勇気が、音楽に唯一無二の輝きを与えます。

全体を通して非常にレベルが高く、審査をさせていただきながらも、私自身皆さんの音楽を心から楽しませていただきました。この瑞々しい感性を大切に、これからも高みを目指し続けてください。素晴らしい時間をありがとうございました。

♡ 次は あなたも ぜひご参加ください ♡

♪第34回 愛知県ヴォーカル・アンサンブルコンテスト

2027年4月17日(土)中学生部門

4月18日(日) 大学職場一般部門

青少年文化センター (アートピア)

名古屋文理大学文化フォーラム